

【ビジターセンター イベント案内】

県立丹沢湖ビジターセンター

●自然教室「野外で実践！地図よみ入門」

登山道を歩きながら、
地図読みに必要な基礎知識とコツを学ぼう！

【日時】平成23年3月12日(土) 9:00~16:00
【場所】シダゴ山(758m)周辺の登山道
【対象】高校生以上 20名 ※応募者多数の場合は抽選
【参加費】1人 2,000円
【締切日】平成23年2月26日(土) 必着
【申込方法】往復はがき、またはFAX(返信用FAX番号明記)に行事名、参加者全員の氏名・年齢・住所・電話番号、参加希望日を記入して、締切日必着でお送りください。詳細は締切後、返信にてご案内いたします。

県立宮ヶ瀬ビジターセンター

●自然教室「丹沢の動物探偵団！」

丹沢山麓で動物たちのくらしをのぞいてみよう！

【日時】平成23年3月5日(土) 10:00~15:30
【対象】小学生以上 30名 ※応募者多数の場合は抽選 ※小学生は保護者同伴
【参加費】1人 1,000円
【締切日】平成23年2月15日(火) 必着
【申込方法】往復はがき、またはFAX(返信用FAX番号明記)に行事名、参加者全員の氏名・年齢・住所・電話番号を記入して、締切日必着でお送りください。詳細は締切後、返信にてご案内いたします。

●企画展「丹沢の素敵な場所、変な場所」

【展示期間】平成22年11月20日(土)
~平成23年3月31日(木)
【内容】丹沢には、感動をみんなに分けたくくなるような素敵な場所がたくさんあります。一方、問題をかかえて悲しくなるような場所もあります。そうした風景を写真で紹介いたします。

県立秦野ビジターセンター

●子ども自然教室「ミニ登山隊しゅっぱーつ！」

大倉高原コースをのんびり元気いっぱい登ってみよう！(標高差約300m)
【日時】平成23年3月6日(日) 9:15~16:00
【対象】4~8歳の子どもの保護者30名 ※応募者多数の場合は抽選
【参加費】1人 800円
【締切日】平成23年2月17日(木) 必着
【申込方法】往復はがき、またはFAX(返信用FAX番号明記)に行事名、参加者全員の氏名・年齢・住所・電話番号を記入して、締切日必着でお送りください。詳細は締切後、返信にてご案内いたします。

●企画展「丹沢自然再生」

【展示期間】平成22年12月18日(土)
~平成23年3月31日(木)
【内容】丹沢の豊かな自然とその背景で起きている様々な問題とは？丹沢の自然再生についてご紹介します。

環境省箱根ビジターセンター

●企画展「箱根仙石原湿原について」(仮称)

【展示期間】平成23年2月18日(金)
~平成23年4月17日(日)
【内容】火入れが再開されてから10年のモニタリング調査の結果を紹介します。

クイズ 神奈川県の自然公園に
すんでいないのはだ〜れ？



1. カモシカ 2. タヌキ 3. シカリス 4. ツキノグマ
こたえはこのページにあります。さがしてみましよう！

自然公園へ出かけよう



休館日は直接お尋ねください

クイズのこたえ 3. シカリス

県立宮ヶ瀬ビジターセンター

〒243-0111 清川村宮ヶ瀬940-15
Tel046-288-1373 Fax046-288-1162
開館時間 9:00~16:30
(1/4~2/28は16:00閉館)
<http://www.kanagawa-park.or.jp/miyagase/>

県立秦野ビジターセンター

〒259-1304 秦野市堀山下1513
Tel0463-87-9300 Fax0463-87-9311
開館時間 9:00~16:30(通年)
<http://www.kanagawa-park.or.jp/hadanovc/>

県立陣馬自然公園センター

〒229-0201 相模原市緑区佐野川1659-3
Tel0426-87-5270 Fax0426-87-5270
開館時間 9:00~16:30
(12/1~3/31は16:00閉館)
<http://www.kanagawa-park.or.jp/jinba-vc/>

県立丹沢湖ビジターセンター

〒258-0202 足柄上郡山北町玄倉515
Tel0465-78-3888 Fax0465-78-3777
開館時間 9:00~16:30
(1/4~2/28は16:00閉館)
<http://www.kanagawa-park.or.jp/tanzawakov/>

県立西丹沢自然教室

〒258-0201 足柄上郡山北町中川1867-2-9
Tel0465-78-3940 Fax0465-78-3940
開館時間 8:30~16:30
(12/1~3/31は16:00閉館)
<http://www.kanagawa-park.or.jp/nishitanzawa/>

環境省箱根ビジターセンター

〒250-0522 足柄下郡箱根町元箱根日礼場164
Tel0460-84-9981
開館時間 9:00~17:00(入館は16:30まで)
<http://www.mmjp.or.jp/HakoneVisitorCenter/>

2011

2月号

No.84

~自然公園から季節のたよりをお届けします~

神奈川県自然公園だより

丹沢大山国定公園 県立丹沢大山自然公園 県立陣馬相模湖自然公園 富士箱根伊豆国立公園

冬の林でさがしてみよう！木々の丸いボール！《秦野ビジターセンター》

凍えそうな北風が吹く時期。けれど山々を歩くと、この時期ならではの生きものや自然の姿を見ることができます。



木々が葉を落とし、明るくなった林を歩いていると、木々のシルエットが青空に美しく映え、枝先ににやら丸いボール状のものをみつけました。さて何でしょう？



① やわらかい苔を上手に丸くまとめているのは、エナガの巣。春、子育てに使ったものです。クモの糸を集めその粘りで苔をまとめるとい



② 小枝を上手に集めてボール状にしたのはリス。下の写真(夏に撮影)をよくと見ると、内側にスギの樹皮を細かく裂いた巣材が詰まっています。



③ 高い木の枝先に3つのボール。大きな鳥の巣のように見えるのは、ツキノグマが枝先の木の実を食べた痕。通称「クマ棚」。太い枝もぐにやりと曲げ、内側に折りたたんでいます。実を食べたのは、おそらく8月下旬から9月。

どれも、木々が葉を茂らせている時期に作られたものです。こんなところで！と冬になって驚かされるようなことも・・・
みなさんも冬の林で不思議なボール、みつけてみませんか？(長縄)

さお〜い冬の陣馬山 《陣馬自然公園センター》



元日は天候に恵まれ、初日の出を見ようと陣馬山頂は大勢の登山者で賑わいました。夜明けの肌をさすような寒さも、赤々と光り輝く来光で一瞬忘れてしまおうです。反対を向くと、赤く照らされた富士山の息をのむ程の美しさや雄大さに、手を合わせたくります。

この時期、登山者の間で話題になるのが冬の造形美であるシモバシラ（シソ科の植物）の氷の結晶です。気温が氷点下になる早朝には、枯れた茎の裂け目から、地中から吸い上げた水分が凍る“氷の花”を登山道脇でも見つける事ができます。茎がぼろぼろになるまで水をまとう神秘的な姿の虜になり、毎年見に来る登山者が増えています。また、登山道にはリスが食事会でも開いたかのように松ぼっくりの食べ跡がたくさん散乱していることがあります。足もとに注目しながら歩くと、一段と楽しさも増します。

年が明けてからの冷え込みで、落ち葉の下が固く凍って滑りやすくなっています。念のため軽アイゼンなどの滑り止めを持参してください。（森久保）



シモバシラの茎にできた“氷の花”



リスが食べた松ぼっくり

足元の出来事 《宮ヶ瀬ビジターセンター》

冬、山はひっそりとした雰囲気には包まれていますが、自然の営みはひとしれず、続いています。

森の中の落ち葉から、ちょこんと顔をのぞかせるように立っているのはフデリンドウのつぼみです（写真①）。高さ1.5cmほどで、茎の上の数個のつぼみはもう少し暖かくなると開花します（写真②）。落ち葉にかこまれてじっと、開花に向けた準備をしているのでしょうか。

落ち葉は生きものたちにとっても寒さや天敵から身を守ってくれる大切な場所です。落ち葉にまぎれている虫、わかりますか？（写真③）。キタテハです（写真④）。羽をひろげると黄と黒の模様が見えます（写真⑤）。成虫で冬を越すチョウは寒い冬を、地面の近くでじっとかくれて冬を過ごします。時々、晴れて気温が高めの日には、羽を思いっきり広げて日光浴している姿も見ることがあります（写真⑥）。

少しづつ春の気配が訪れるこの季節。足元の自然をじっくり観察して、ささやかな営みを感じてみてください。（鈴木）



ガンカモ調査が行われました 《箱根ビジターセンター》

今年も1月6日、7日恒例の県下一斉ガンカモ調査が行われました。箱根地区の調査地点は、芦ノ湖・イタリ水源・早川・お玉ヶ池・須雲川となっています。芦ノ湖についてはボートに乗って、湖の端から



今年出会ったカワアイサ



早川渓谷で泳ぐオンドリ

今年度の調査結果は2月に発表される予定です。ガンカモ類の生息状況を知り、野生動物が直面している多くの問題について、考えていただけたらと思います。（石原）



芦ノ湖に多いオオバン

風を利用する花 《丹沢湖ビジターセンター》

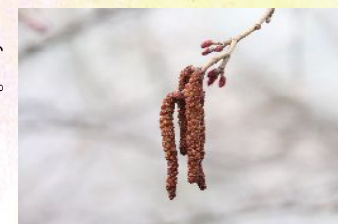
今年は、スギ花粉の飛散量が非常に多いと予測されています。神奈川県自然環境保全センターで行っている県内スギ雄花の着花調査では、平成9年の調査開始以来、過去最高の着花点数だったそうです。花粉を飛散する雄花の形成は、前年夏の気象条件と大きく関係しており、高温少雨で日照時間が長いと、着花が促進されるそうです。昨年の夏は、まさにそんな気象条件でしたね。そろそろ飛散を始める頃、花粉症の方は万全の対策が必要です。

スギのように、大量の細かい花粉を飛散させる花を“風媒花”といいます。文字通り、花粉を風に運んでもらい雌しべまで辿り着かせるように進化した花です。スギの花というイメージがわからない人が多いかと思いますが、それもそのはず、風媒花の花は、目立たない作りをしているのです。花びらはないか、大変小さかったりと、虫に存在をアピールする必要がないのでとても地味です。

スギ以外の風媒花の樹木は、ヒノキやアカマツなどの針葉樹の他に、2〜3月頃花を咲かせるオオバヤシャブシやケヤマハンノキ、4月頃花を咲かせるイヌシデやイロハモミジなどの広葉樹もあります。見落とされがちな花ですが、よく見てみると、それぞれに特徴を持っています。花粉症に負けずに、是非、じっくり観察してみてください。（長澤）



オオバヤシャブシの花
雄花は花粉を出し終わり、雌花が生長してきている



ケヤマハンノキの花
花粉を出し始めた雄花と開き始めた雌花